

<先週の説教から>

『ルカ ⑭ 一天には栄光、地には平和が』

武田真治牧師

イザヤ書 38:16~20 ルカ福音書 2:13-20

今日の聖書の箇所には、イエス様のご誕生を祝う、有名な『いと高きところには栄光、神にあれ。地には平和、み心にかなう人にあれ』という天での讃美の声が記されています。羊飼いの元に、み使いが現れ、イエス様の誕生を知らせた後に、その天使に天の大軍が加わってこの讃美歌を歌う場面は、クリスマスパージェントの前半のクライマックスと言って良いでしょう。讃美歌『荒野のはてに』でも「グローリア イン エクセルシス デオ」とラテン語で堂々と歌われてきました。

ただ、この言葉について、実は正しく訳しますと『~にあれ~にあれ』という言葉は原文にはありません。むしろ「天で栄光が神に(ある)、地に平和が人に(ある)」と訳せます。これは神の子イエス様が、ベツレヘムにお生まれになったことで「高き所=天」で喜びが溢れているということが世界の人々に知らされている讃美の言葉ですから、まさに“ハレルヤ”という意味です。それを「~あれ」と付け加えてしまいますと、それは(~でありますように)という祈願・祈りの言葉になってしまい、そうすると、今はまだ実現していないということになります。今日の箇所ではっきりと「天の軍勢が賛美した」のですから《今や栄光が現れ、平和が訪れた》のです。では、どうして「~あれ」と訳され、訳されて来たのかと言えば、依然として戦争等が無くならない歴史が続いているからと。クリスマスが地の平和の始まりだと考えるしかないからでしょう。

ただ、この「平和」については、今日の旧約聖書に「主が近くにいてくだされば、人々は生き続けます。わたしの霊も絶えず生かしてください。見よ、わたしの受けた苦痛は、平和のためにほかならない。」とあります。主が共にいてくださることで、心と体の“命=生きる力”が与えられるのだと、その時、

たとえ今“苦痛”を受けていても、必ずこのことが後の自分に“平和(=シャローム)”を与えてくれると信じているという言葉です。ここから分かるように“平和”とは単に戦争や争いが無くなることだけを指すのではなく、神様との“和解”や自分や自分の人生との“和解”を含み、それがあって周囲や他者との“和解”も可能となるのが、聖書の言う“平和=シャローム”です。それは一連のクリスマスの「出来事を心に納めて、思い巡らしていた」マリアさんの姿と重なります。今の自分にはとても受け入れられない、苦痛と感じるような出来事も何かの“平和=和解”を与えてくれるはずだと！少なくとも「思い巡らすこと」は悪い事ではなく、必要な事なのですね！

【今週の集會】

*聖書研究・祈禱会 I. 7月3日(水) 20:00
II. 7月4日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題: 創立記念礼拝を覚えて
担当者: (水)鈴木 (木)北條
祈りに覚える人: 伊藤さん 茨木さん

【教勢報告】

主日礼拝 男18 女51 計69
祈禱会 I. 男5 女3 計8 II. 男1 女10 計11
日曜学校 幼稚科3 小中科5 計8
ひつじ雲の会(6月25日(火)) 男1 女3 計4

【次週主日礼拝】

7月7日(日)
聖書: レビ記 12:1~8
ルカによる福音書 2:21~32

説教: 「ルカ ⑮ — 主の律法にあるように」
武田真治 牧師

讃美歌: 17(1)、32、521、180、346、
81(1~2)、90(1)

【次週当番表】

司式: 保坂長老 奏楽: 中村 礼拝: 金刺長老
配餐: 金刺 金刺 齋藤 坂田各長老
献金: 坂田 真田 受付: 西尾 森本
会堂準備: 浅井 阿部 齋藤 山田 看板: 保坂
週報: 岩佐 お花: 森本

【次週集會予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会 ・赤熊広場草刈り
礼拝後: ・7月誕生者祝福 ・牧師と語る会 ・お茶の会
・聖歌隊練習 ・長老会 ・会堂管理委員会

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2024年 6月 30日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>